

：機微な情報のため非公開

東京中部間連系設備(佐久間東幹線(山線)他) 増強工事の検証について

2022年 11月 9日
広域系統整備委員会
コスト等検証小委員会事務局

1. 本日の議題について
2. 工事費増加の検証の対応状況について
3. 基礎工事の検証について
4. 仮設備の検証について
5. まとめ

2は機微な情報のため非公開

- 前回委員会にて、検証方法を、(1)本事象が生じた経緯等の検証と、(2)契約等のプロセスや工事費増加の検証の2つに大別し、それぞれに検証を進めることとしたところ。
- 現在、一般送配電事業者の協力を得ながら(2)のうち、**工事費増加の検証を進めており、本日はその対応状況についてご報告**する。
- なお、契約等のプロセスについても、電源開発NWにおける受発注の手続きの詳細について確認を進めており、一定程度確認ができたところで(1)も含め、改めて進捗についてご報告する予定。

【参考】検証方法について

第25回コスト等検証小委員会
(2022.9.28) 資料1

4

- 検証方法については、大別すると①本事象が生じた経緯等の検証、②契約等のプロセスや工事費増加の検証が考えられる。
- 本日は検証結果を通じて、どのような処置を行うか、検証目的と方法をより明確にすることで、今後の本委員会での議論や見通しを整理したい。

① 本事象が生じた経緯等の検証

- ・ 今後の再発防止等の観点から、今回の工事費増額に至った経緯について、実施案から現在に至るまでの内容や、調達プロセスの内容等の確認を通じて、本質的な要因を明らかにする
- ・ その際、事業実施主体のこれまでのプロセスを確認するだけでなく、広域機関の計画策定プロセスやコスト等検証小委員会の進め方等についても、必要に応じて改善の余地がないか検討する

② 契約等のプロセスや工事費増加の検証

- ・ 広域系統整備計画策定時に想定した状況からの変化（測量等の計画策定後に行われる協議・検討等による変更、インフレ等の外的要因等）への対応として、経済合理的な対応となっているか、更なる増額を懸念して今後のリスクを過剰に織り込んでいないか、等を確認
- ・ その上で、一般送配電事業者の専門的知見も踏まえ、複数工法との比較等を通じて、合理的な工事費にする余地があれば、詳細設計に反映させることも検討

3. 基礎工事の検証について

①基礎工事の検証の進め方について

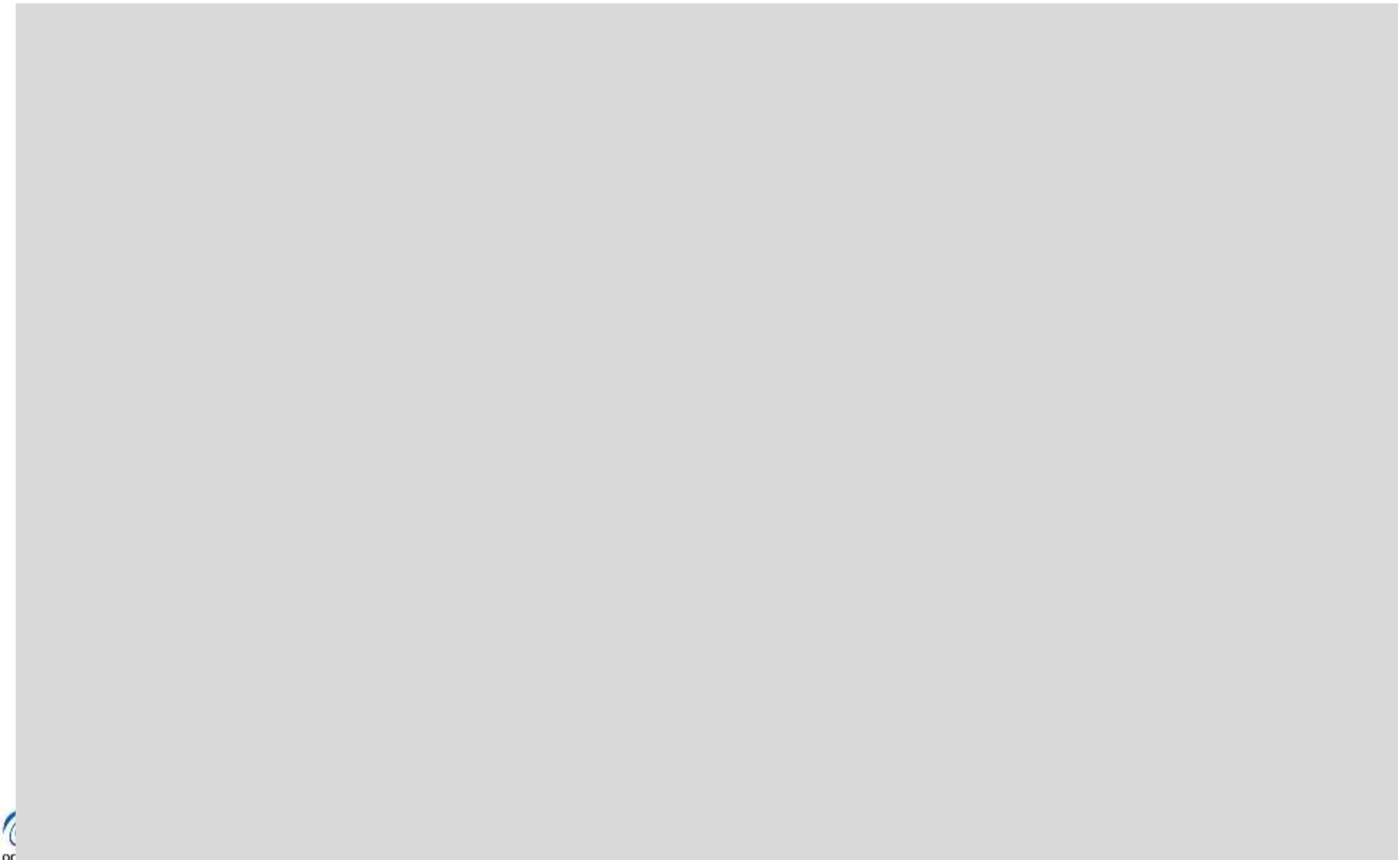
- 工事費増加の検証に当たっては、まずは工事設計・計画策定に関する「基本的な考え方」を整理・確認し、標準的な工事内容と判断できるものを選別した上で、「基本的な考え方」とは異なる理由で決定した工事を抽出し、それらが適切なものか評価することとしている。
- 基礎工事については、電源開発NWより提出のあった、基礎型選定フロー及び基別設計結果一覧をもとに、一般送配電事業者の協力を得ながら内容を確認している。

3. 基礎工事の検証について

②改善の可能性がある事例()

3. 基礎工事の検証について

③「基本的な考え方」の妥当性



3. 基礎工事の検証について

④基礎工事の効率的な検証



4. 仮設備の検証について

① 仮設備の検証の進め方について

- 仮設備については、地形・地質や既設道路有無、用地協議状況などの立地により、個々の地点でのオーダーメイドの要素が多く、一定程度の定型化ができた場合でも、個々の事情による変動要素や、工事実施以降に判明した状況による変動要素も大きい。
- まずは、検証の方法としては基礎工事と同様に、以下のフローにて実施し、特に仮設備の規模や運搬ルート選定については一定のスクリーニングが可能と考える（11～12スライド）。
- 加えて、一般送配電事業者においても仮設備のコストダウンを日々検討しているため、電源開発NWとは異なる目線からコスト低減に向けた着眼点について具体的に提案する。

4. 仮設備の検証について

②鉄塔周辺仮設備の確認方法

4. 仮設備の検証について

③ 運搬仮設備の確認方法

4. 仮設備の検証について

④ 運搬仮設備の個別確認例 ()

4. 仮設備の検証について

⑤ 仮設備関係でのコスト低減に向けての着眼点

- 電源開発NWの基本的な考え方にそって各仮設備の妥当性を確認しつつ、並行して一般送配電事業者から電源開発NWとは異なる目線で以下のようなコスト低減に向けた着眼点を提案していく予定。電源開発NWにて現地の状況や経済合理性も勘案しつつ、適用可能性を検討し、コスト削減につなげる。

- 工事費増加の検証としては、基本的には「検証の進め方」にそって検証を進めることで、コスト低減に向けた具体的な提案につなげていく。
- 今後、本委員会において、改めて先行工区での確認結果をご報告させていただくとともに、それを踏まえ、コスト削減を反映した工事費を再算定することとしたい。
- 一方、これら一連の検証が全てまとまってから検証結果を設計に反映するのでは、工事の遅延などの原因にもなる。
- 電源開発NWでは先行工区以外についても、詳細設計の段階にあることから、今後、検証作業では、先行工区全体で確認ができたコスト削減策は、その適用の可能性を都度、先行して電源開発NWが検討し、設計等に反映していくこととしたい。